

## 令和8年度 第1回 葵が丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年4月24日（金） 14時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 葵が丘小学校 南校舎1階 多目的室
- 3 出席委員 小栗 則利、桐村 哲雄、見野 泰弘、田村 都弥、伊藤 謙吾、柳沢 照美、斎藤 美代子
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 嶋田 哲也（北部協働センター所長）
- 6 学校コーディネーター 西原 真知、吉田 里美
- 7 学 校 小山 貴広（校長）、土屋 里佳（教頭）、杉山 瑛一（CS担当職員）  
村上 朝香（CSディレクター）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録の作成者 CSディレクター 村上 朝香
- 10 議長の選出

小栗会長より、年間を通して見野委員が務めることが提案され、全員異議なくこれを承認した。

### 11 協議事項

- (1) 学校運営の基本方針について
- (2) 葵が丘小学校いじめ防止基本方針について
- (3) 夢育やらまいか事業に対する意見書及び「夢育やらまいかCS加算分」予算案について

### 12 会議記録

司会の土屋教頭から、委員総数7人のうち7人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

### ○ 熟議

#### (1) 学校運営の基本方針について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、学校運営の基本方針についての説明があり委員から以下の発言があった。

##### ●主体性の育成について

- ・ 校長先生の話聞き、先生だけではなく保護者や地域の大人も一丸となって、子供たちの成長を支えることが重要であると再認識できた。（見野委員）  
→ 主体的・対話的な活動を通じて、自分だけではなく他者の幸せを尊重し、自分で責任を持って行動できる子供に育てていきたい。（小山校長）

##### ●「叱る」ことの宣言とレジリエンスの育成について

- ・ 「叱る」ことは、現代では大変勇気がいる行為である。子供を注意できない社会になっていると感じる。（桐村副会長）  
→ 大人が叱りにくい世の中になっている。そのため「命に関わること」「人を傷つけること」「ルールを破ること」については、叱ることを保護者にも周知した。（小山校長）  
→ 知らない大人から声をかけられたと不審者扱いされる場合があるのではないかと。公共の場で安易に声をかけられない、指導できない現状もある。（田村委員）

- ・ 親が注意しない子供は、善悪が分からないまま成長するように思う。すべて学校に押し付け、親がしつけるべきことができていないと感じる。(斎藤委員)
- ・ 危険を予測できない子供も増えているように思う。子供が危険な行為をしたら、叱ることは大切である。なぜ今の行為がいけないのか話をし、理解させることが重要である。(伊藤委員)
- ・ 失敗から学ぶことも大事である。(見野委員)
- ・ 叱らない親が増えているように感じる。現代の子供たちは叱られ慣れていないように感じる。(小栗会長)
- ・ 外国籍家庭においては、曖昧な表現は理解してもらえない場合があるため、善悪を「はっきりとストレートに伝える」指導が必要な場合がある。学校と連携しながら指導していきたい。(柳澤委員)

協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

## (2) 葵が丘小学校いじめ防止基本方針について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、葵が丘小学校いじめ防止基本方針について説明があった。

- ・ 校長の説明を聞き、些細な出来事でも本人がいじめられたと感じたら、それは「いじめ」として処理し対応しなければならぬことに学校現場の大変さを感じた。(見野委員)
- 大人が過剰に介入し、すべてを「いじめ」として処理することが、子供同士でトラブルを解決する力を奪っているのではないかというジレンマがある。(小山校長)
- ・ 昨年も熟議で取り挙げられたレジリエンス(受け流す心・折れない心)を高めることが大切だと感じた。(伊藤委員)

協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

## (3) 夢育やらまいか事業に対する意見書及び「夢育やらまいかCS加算分」予算案について

議長の指示により、教頭から別紙資料に基づき、夢育やらまいかCS加算分についての報告があった。

協議の結果、全員異議なくこれに賛同した。

## ◇ その他連絡事項等

- ・ 学校支援コーディネーターから、今年度の活動計画の説明があった。
- ・ 杉山先生から、新制度「ラーケーション」についての説明があった。
- ・ 司会から、次回会議は令和8年6月18日(木)15時から多目的教室で開催する旨の報告があった。